

## 第17期

# 運用報告書(全体版)

## 日本新生ファンド 愛称：ライジングパワー

【2018年9月19日決算】

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「日本新生ファンド（愛称：ライジングパワー）」は、2018年9月19日に第17期決算を迎えましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ  
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2001年9月20日から2021年9月17日までです。
運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 投資にあたっては、構造改革を通じた経済の活性化により90年代の「停滞の10年」を抜け出し「躍動の10年」が展望される日本経済の方向性に焦点をあて、経済社会の構造改革が進展することにより新たなビジネスチャンスが生じ収益の向上が期待できる企業、構造改革が進展する中でも競争上の優位を保てると判断できる企業およびより競争力が高まると判断できる企業等の株式に投資します。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎年9月19日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 分配金額は、委託会社が、基準価額水準、配当等収益等を勘案のうえ決定します。 分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			東証株価指数 (TOPIX)		日経平均株価 (225種)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
	(分配落)	税金 込み 分配	期 騰 落 率	(参考指数)	期 騰 落 率	(参考指数)	期 騰 落 率			
	円	円	%	ポイント	%	円	%	%	%	百万円
13期(2014年9月19日)	13,884	500	19.1	1,331.91	9.6	16,321.17	10.5	86.2	—	248
14期(2015年9月24日)	13,548	400	0.5	1,426.97	7.1	17,571.83	7.7	94.1	—	204
15期(2016年9月20日)	12,511	200	△ 6.2	1,316.97	△ 7.7	16,492.15	△ 6.1	91.4	—	176
16期(2017年9月19日)	16,345	600	35.4	1,667.88	26.6	20,299.38	23.1	94.7	—	210
17期(2018年9月19日)	17,545	800	12.2	1,785.66	7.1	23,672.52	16.6	94.2	—	217

(注) 基準価額および分配金(税引前)は1万円当たり、基準価額の騰落率は分配金(税引前)込み。

(注) 東証株価指数(TOPIX)、日経平均株価(225種)は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。

(注) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		東証株価指数 (TOPIX)		日経平均株価 (225種)		株式 組入比率	株式 先物比率
	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率	(参考指数)		
(期首)	円	%	ポイント	%	円	%	%	%
2017年9月19日	16,345	—	1,667.88	—	20,299.38	—	94.7	—
9月末	16,407	0.4	1,674.75	0.4	20,356.28	0.3	94.4	—
10月末	17,411	6.5	1,765.96	5.9	22,011.61	8.4	94.9	—
11月末	18,250	11.7	1,792.08	7.4	22,724.96	11.9	95.5	—
12月末	18,739	14.6	1,817.56	9.0	22,764.94	12.1	94.7	—
2018年1月末	19,466	19.1	1,836.71	10.1	23,098.29	13.8	95.2	—
2月末	18,815	15.1	1,768.24	6.0	22,068.24	8.7	88.6	—
3月末	18,434	12.8	1,716.30	2.9	21,454.30	5.7	88.6	—
4月末	18,306	12.0	1,777.23	6.6	22,467.87	10.7	90.1	—
5月末	17,909	9.6	1,747.45	4.8	22,201.82	9.4	92.0	—
6月末	17,696	8.3	1,730.89	3.8	22,304.51	9.9	92.9	—
7月末	18,144	11.0	1,753.29	5.1	22,553.72	11.1	93.6	—
8月末	18,157	11.1	1,735.35	4.0	22,865.15	12.6	91.3	—
(期末)								
2018年9月19日	18,345	12.2	1,785.66	7.1	23,672.52	16.6	94.2	—

(注) 期末基準価額は1万円当たり分配金(税引前)込み、騰落率は期首比。

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

（2017年9月20日～2018年9月19日）



期 首：16,345円

期 末：17,545円（既払分配金（税引前）：800円）

騰落率：12.2%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 参考指数は、東証株価指数（TOPIX）および日経平均株価（225種）です。

(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首（2017年9月19日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

## （主なプラス要因）

- ・業種配分では、ガラス・土石製品、サービス業、情報・通信業などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、東海カーボン、アンリツ、リクルートホールディングスなどが基準価額にプラスに寄与しました。

## （主なマイナス要因）

- ・業種配分では、非鉄金属、卸売業、保険業が基準価額にマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、セイコーエプソン、IBJ、古河電気工業などが基準価額にマイナスに影響しました。

## 投資環境

(2017年9月20日～2018年9月19日)

国内株式市場は、期首から2018年1月下旬にかけて、世界的な景気拡大や良好な国内企業業績、米国株式市場が法人税減税の施行などで上昇したことから、大きく上昇しました。しかし、米国の利上げペースの加速懸念から米国株式市場が下落したことや、円高ドル安の進行、米国の通商政策に対する警戒感などを背景に、3月下旬にかけては上昇幅を縮めました。その後は、円高ドル安の一服や北朝鮮情勢に対する懸念の後退、国内上場企業の業績拡大に対する期待と米中貿易摩擦の激化に対する懸念が交錯して、国内株式市場は一進一退の展開となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2017年9月20日～2018年9月19日)

当ファンドは、経済社会の構造改革の進展において、新たなビジネスチャンスが生じ収益の向上が期待できる企業、競争上の優位性を保てると判断できる企業およびより競争力が高まると判断できる企業等の株式に投資を行っております。

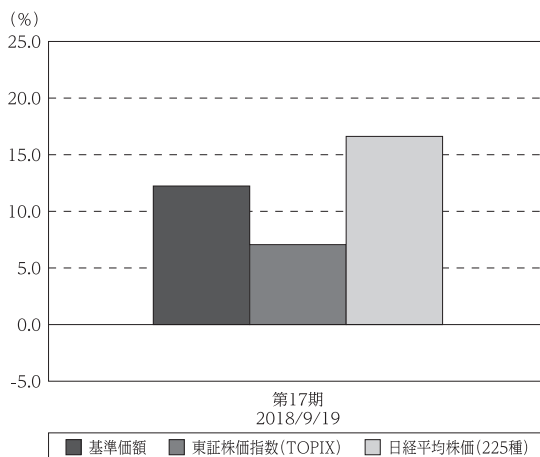
当期の運用につきましては、デイサービス事業の拡大による利益成長が期待されたツクイや、インターネットを活用した独自のプラットフォームビジネスを評価してラクスルなどを新規に買い付けました。一方、収益の先行きが懸念されたセイコーエプソンやASTIなどを全株売却しました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年9月20日～2018年9月19日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数としている東証株価指数（TOPIX）の騰落率を上回った一方、日経平均株価（225種）の騰落率を下回りました。詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) 参考指数は、東証株価指数（TOPIX）、日経平均株価（225種）です。

## 分配金

(2017年9月20日～2018年9月19日)

当ファンドは毎年9月19日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象収益として、分配可能額、基準価額水準、配当等収益等を勘案のうえ分配金額を決定します。

当期の分配につきましては、1万口当たり800円（税引前）とさせていただきます。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第17期
	2017年9月20日～ 2018年9月19日
当期分配金	800
(対基準価額比率)	4.361%
当期の収益	800
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,280

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

国内株式市場は、堅調に推移すると予想します。世界的な景気拡大や国内企業の業績拡大への期待などが株価を押し上げる材料になると考えます。ただ、米中貿易摩擦など国際情勢の不透明感などから、短期的に値動きが荒くなる局面があると考えられます。

当ファンドの運用につきましては、経済社会の構造改革が進展することにより、新たな事業機会の創出が期待される企業や製品力や営業力などを背景に、競争優位性が高まると考えられる企業などへ選別投資を行う方針です。

当面は、自動車の電装化やI o T（Internet of Things、モノのインターネット）、人工知能（A I）やビッグデータビジネスの拡大などに伴う需要増加の恩恵が期待されるテクノロジー関連株などの組入比率を高位で維持するほか、個別企業の業績動向を精査し、2019年度以降も収益成長が続くと見込まれる銘柄へ選別投資する方針です。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

（2017年9月20日～2018年9月19日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 333	% 1.836	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(157)	(0.864)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(157)	(0.864)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 20)	(0.108)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	33	0.182	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	( 33)	(0.182)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0)	(0.001)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	367	2.024	
期中の平均基準価額は、18,144円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2017年9月20日～2018年9月19日)

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

## 株式

国 内	上場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		62	125,252	84	147,310
		(△ 8)	( - )		

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2017年9月20日～2018年9月19日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	272,563千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	214,341千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.27

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年9月20日～2018年9月19日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	125	36	28.8	147	50	34.0

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	421千円
うち利害関係人への支払額 (B)	141千円
(B) / (A)	33.6%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

## ○組入資産の明細

(2018年9月19日現在)

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>建設業 (5.9%)</b>				
東急建設	2.3	—	—	—
ピーアールホールディングス	4.2	—	—	—
前田道路	1	1	2,291	
五洋建設	4	5	3,570	
協和エクシオ	0.9	1.9	6,194	
<b>食料品 (1.7%)</b>				
アサヒグループホールディングス	0.3	0.7	3,448	
<b>パルプ・紙 (1.6%)</b>				
王子ホールディングス	3	4	3,264	
<b>化学 (5.4%)</b>				
クラレ	1	—	—	—
信越化学工業	0.5	0.5	4,916	
住友ベークライト	—	5	5,255	
花王	0.2	0.1	905	
D I C	0.6	—	—	—
サカタインクス	0.5	—	—	—
<b>医薬品 (3.8%)</b>				
中外製薬	—	0.5	3,490	
ベプチドリーム	0.5	1	4,220	
<b>ガラス・土石製品 (6.6%)</b>				
AGC	1.2	1.2	5,676	
東海カーボン	6.5	2.3	4,747	
MARUWA	0.8	0.4	3,044	
<b>鉄鋼 (0.7%)</b>				
東洋鋼板	4.5	—	—	—
イボキン	—	0.7	1,448	
<b>非鉄金属 (0.5%)</b>				
古河電気工業	1.1	0.3	1,122	
<b>金属製品 (0.7%)</b>				
SUMCO	1	0.8	1,339	
<b>機械 (7.5%)</b>				
三浦工業	1.8	2.3	7,843	
ヤマシンフィルタ	1.1	2.1	1,950	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
平田機工	0.3	—	—	—
ダイフク	1.2	1	5,510	
日本精工	3.2	—	—	—
キッツ	2.2	—	—	—
<b>電気機器 (17.7%)</b>				
ミネベアミツミ	1.2	1.1	2,357	
安川電機	2.1	0.7	2,450	
シンフォニアテクノロジー	8	—	—	—
日本電産	0.2	0.2	3,300	
ルネサスエレクトロニクス	1.5	—	—	—
セイコーエプソン	2.4	—	—	—
アンリツ	1.3	5.5	10,114	
ソニー	1.6	1.4	9,354	
スミダコーポレーション	1.2	—	—	—
A S T I	6	—	—	—
村田製作所	—	0.3	5,382	
東京エレクトロン	0.3	0.2	3,274	
<b>輸送用機器 (3.1%)</b>				
日産自動車	2	—	—	—
スズキ	1	0.9	6,390	
<b>情報・通信業 (16.1%)</b>				
夢の街創造委員会	2.8	0.5	1,620	
ブレインパッド	—	0.4	1,812	
ネクソン	1.1	2.2	3,064	
ブロードリーフ	—	1.5	1,008	
メディカル・データ・ビジョン	1.4	—	—	—
UUUM	—	0.2	1,944	
ラクスル	—	1.6	5,432	
メルカリ	—	1.2	4,218	
チームスピリット	—	0.1	180	
アルゴグラフィックス	—	0.9	4,369	
スクウェア・エニックス・ホールディングス	1	1.1	5,049	
ソフトバンクグループ	0.5	0.4	4,366	



日本新生ファンド（愛称：ライジングパワー）

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>卸売業 (8.7%)</b>			
あい ホールディングス	0.2	2.4	6,048
シップヘルスケアホールディングス	—	1.2	4,914
ハビネット	1.1	—	—
日本ライフライン	0.7	—	—
阪和興業	9	1.2	4,542
日鉄住金物産	0.4	0.4	2,256
<b>小売業 (—%)</b>			
アイケイ	0.6	—	—
<b>保険業 (1.0%)</b>			
アイベツ損害保険	—	0.5	2,092
<b>その他金融業 (1.3%)</b>			
東京センチュリー	0.9	0.4	2,640
<b>不動産業 (—%)</b>			
ダイビル	0.6	—	—
大京	5	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>サービス業 (17.7%)</b>			
トラスト・テック	0.7	—	—
ツクイ	—	6.5	6,669
ベネフィット・ワン	0.8	0.6	2,007
RIZAPグループ	—	1.4	967
オリエンタルランド	0.2	0.6	7,023
セントラルスポーツ	0.6	—	—
イトクロ	0.7	0.5	3,440
リクルートホールディングス	1.9	2.1	7,696
キュービーネットホールディングス	—	1.5	3,091
スプリックス	—	1.2	3,600
プロレド・パートナーズ and factory	—	0.1	1,378
	—	0.1	407
合 計	株数・金額 銘柄数<比率>	102 58	71 54 <94.2%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2018年9月19日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	204,693	89.2
コール・ローン等、その他	24,679	10.8
投資信託財産総額	229,372	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2018年9月19日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	229,372,878
コール・ローン等	24,560,578
株式(評価額)	204,693,300
未収配当金	119,000
(B) 負債	12,010,548
未払収益分配金	9,911,066
未払信託報酬	2,093,288
未払利息	34
その他未払費用	6,160
(C) 純資産総額(A-B)	217,362,330
元本	123,888,327
次期繰越損益金	93,474,003
(D) 受益権総口数	123,888,327口
1万円当たり基準価額(C/D)	17,545円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,7545円です。

(注) 当ファンドの期首元本額は129,005,686円、期中追加設定元本額は6,110,821円、期中一部解約元本額は11,228,180円です。

## ○損益の状況（2017年9月20日～2018年9月19日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	2,652,969
受取配当金	2,662,626
受取利息	59
その他収益金	50
支払利息	△ 9,766
(B) 有価証券売買損益	25,157,750
売買益	49,615,219
売買損	△ 24,457,469
(C) 信託報酬等	△ 4,242,363
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	23,568,356
(E) 前期繰越損益金	59,134,753
(F) 追加信託差損益金	20,681,960
(配当等相当額)	( 42,176,491)
(売買損益相当額)	(△ 21,494,531)
(G) 計(D+E+F)	103,385,069
(H) 収益分配金	△ 9,911,066
次期繰越損益金(G+H)	93,474,003
追加信託差損益金	20,681,960
(配当等相当額)	( 42,176,491)
(売買損益相当額)	(△ 21,494,531)
分配準備積立金	72,792,043

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第17期
(a) 配当等収益(費用控除後)	2,248,248円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	21,320,108円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	42,176,491円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	59,134,753円
分配対象収益(a+b+c+d)	124,879,600円
分配対象収益(1万円当たり)	10,080円
分配金額	9,911,066円
分配金額(1万円当たり)	800円

## 用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>資産</b>	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
<b>負債</b>	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
<b>純資産総額(資産－負債)</b>	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
<b>受益権総口数</b>	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

## 用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>配当等収益</b>	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
<b>有価証券売買損益</b>	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
<b>信託報酬等</b>	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
<b>当期損益金</b>	当期における収支合計です。
<b>前期繰越損益金</b>	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
<b>追加信託差損益金</b>	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
<b>計</b>	収益分配前の期中の収支の総合計です。
<b>収益分配金</b>	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
<b>次期繰越損益金</b>	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

## ○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税引前）	800円
支払開始日	2018年9月26日（水）までの間に支払いを開始します。
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本支店

### 〈お知らせ〉

該当事項はございません。